このビジョンに掲げた「目指す方向性」に沿って 取り組む具体的な施策の例

- ①県及び各市町村は、教員(管理職及び司書教諭を含む)、学校司書等の学校図書館の活用に関する指導 力の育成等に向けた研修を充実する。
- ②学校図書館は、保護者や地域の人々とつながり、読書活動の推進、地域教材・人材の活用など、幅広く学校 教育を支援する。
- ③県が示している小・中・特別支援学校の司書教諭の活動時間5時間以上の保持を継続すると共に、高等 学校においても、担当時間数の確保や学校体制を整備し、司書教諭がその職責を充分に果たせるよう 努める。
- ④学校図書館法改正やこのビジョンの策定を契機に「学校司書」の名称や役割の周知に努め、学校司書 が全校に配置されその専門的職務を一層発揮できるよう雇用環境等の改善に努める。
- ⑤国の「第4次学校図書館図書整備5か年計画」に沿って、図書の整備、新聞の配備を行い、適切に図書館 資料の更新を行い、学校図書館図書標準を踏まえた図書館資料の質の向上及び充実を目指す。
- *参考 「鳥取県子どもの読書活動推進ビジョン(第3次計画)」の目標値

項目		平成25年度	平成30年度目標
学校図書館図書標準達成率	小学校	鳥 取 県 52.7% 全国平均 60.3%	全国平均以上
子以 囚自加囚自际干压风干	中学校	鳥 取 県 40.7% 全国平均 50.0%	全国平均以上

(文部科学省「平成26年度学校図書館の現状に関する調査(平成25年度公立学校調査結果))

⑥学校図書館の読書環境を更に整え、ICT活用教育の整備を含め、情報を収集し 「学習する場」としての環境整備を行う。



▶県の推進体制

鳥取県立図書館内に設置した「学校図書館支援センター」を中心として、教育委員会各課、教育センター等との緊密な 連携のもと、司書教諭及び学校司書をはじめとするすべての教職員のスキル向上のための研修計画を立案、実施する とともに、それぞれの学習環境の整備に向けたアドバイスを行うこととする。

【企画する研修の例】

対象 主管課	幼稚園・保育所・ 認定こども園	小学校	中学校	高等学校 特別支援学校	その他
教育センター	·初任者研修	·初任者研修 ·司書教諭研修 ·図書館専門研修	·初任者研修 ·司書教諭研修 ·図書館専門研修	·初任者研修 ·司書教諭研修 ·図書館専門研修	·管理職等研修
図書館	·幼児の成長を 育む講座	· 学校図書館活用 教育普及講座	· 学校図書館活用 教育普及講座	·学校司書研修会	

*市町村教育委員会、公共図書館、教育研究団体などの求めにより学校図書館支援員派遣の研修会を行う。

【学習環境の整備等に関するアドバイスの内容例】

- ・アクティブ・ラーニングや探究的学習等、多様な学習形態に対応できる教室環境及び図書館の整備について
- ・子どもたちの情報検索能力向上を図ることを目的にした図書館システムの活用について
- ・学校図書館活用教育の推進に先進的に取り組む事例等の情報提供

▶市町村との連携

県と市町村は、情報交換を密に行い、それぞれの実態に合わせて学校図書館活用教育の 推進を図るものとする。



とっとり学校図書館 活用教育推進ビジョン

鳥取県立図書館 学校図書館支援センタ TEL(0857)26-8155 FAX(0857)22-2996

toshokan@pref.tottori.jp

策 定:平成28年3月

【▶ビジョン策定の趣旨

- O知識基盤社会の進展、変化の激しいこれからの時 代には、学びの質や深まりを重視した、いわゆる 21世紀型能力を培うことが重要である。
- ○課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び の充実が必要視されており、教科等を横断する汎 用的なスキルを扱う学校図書館における情報活用 能力を育てる指導は不可欠なものである。
- ○学校図書館法が一部改正(平成27年4月1日施 行)され、「学校司書」の配置と国及び地方公共団 体による研修実施の努力義務が明記された。今 後ますます学校図書館の「読書センター」「学習 センター」「情報センター」の機能向上が図られて いくことが期待される。



- ○県や各市町村は、学校司書の配置を進めるなど校種ごとに充実した学校図書館施策を実施し、様々な環 境整備を行っている。一方では、就学前の読書活動の実態や他の校種の学校図書館活用教育の内容など を互いによく理解しあうことが必要である。
- O就学前から高等学校まで継続的にとらえ、発達段階に応じ、授業カリキュラムを考慮した学校図書館活用 教育を推進するため、このビジョンを策定した。本ビジョンが校種間の相互理解の促進につながり、子ど もたちの「生きる力」の増進に寄与することを願うものである。

▶学校図書館・司書教諭・学校司書とは

学校図書館法

○学校図書館…学校教育において欠くことのできない基礎的な設備 [第1条]

図書、視覚聴覚教育の資料その他学校教育に必要な資料(略)を収集し、整理し、及 び保存し、これを児童又は生徒及び教員の利用に供することによって、学校の 教育課程の展開に寄与するとともに、児童又は生徒の健全な教養を育成する

ことを目的として設けられる学校の設備 [第2条]

○司書教諭……学校図書館の専門的職務を掌る(教諭)[第5条]

○学校司書……(略)学校図書館の運営の改善及び向上を図り、児童又は生徒及び教員による学校図書館の利用の一層の促進に資するため、専ら 学校図書館の職務に従事する職員(次項において「学校司書」という。) [第6条]

学校図書館の機能・役割

学校図書館は「学校教育の中核」として、それぞれの学校の教育目標にしたが い、子どもたちが読書習慣を身につけ、生涯にわたって学び続ける基礎的な 力や人間性を育むために、相互に関連する以下の3つの機能を備えている。

読書センター …… 読書活動の拠点となること 授業に役立つ資料を備え

学習センター

情報センター

学習支援を行うこと

……情報活用能力を育むこと

※子どもたちの 心の居場所 であり、教員のサポート 機能もある。



情報センター

読書センター

鳥取県の学校図書館活用教育で目指す方向

- ○学校図書館はメディアセンターであり、児童生徒や教職 員に、図書資料だけでなく地域や人も含めた多様な資 料・情報を提供する。(つなげる)
- ○学校図書館を活用した多様な指導方法の工夫は、学び の質を高め、豊かな学びへと広がり、学習・教育の展開 の可能性を広げる。(ひろげる)
- ○さらに、将来を見据えた学校図書館活用教育により、こ れからの生活・キャリアに対応する力を育成し、次代を 担う「真の学ぶ力」、「生きる力」をもった子どもたちを 育てることを目指す。(そだてる)
- ※このようなことから、このビジョンでは、今後の方向性の柱を右の3項目に整理した。



児童生徒および教職員の情報や資料の利用の保障 青報を結ぶ(つなげる)

- ①学校図書館は、児童生徒の読書生活や授業活用に必要 な情報や資料等を十分に提供する。
- ②学校図書館は、教職員に様々な情報提供を行い、教材研 究、教材準備をサポートする。
- ③学校図書館として、特別な支援を必要とする児童生徒 への「合理的配慮」の提供と「基礎的環境整備」の推進を 図る。
- ④学校図書館は、地域の人材や施設と連携し、児童生徒の 学習を地域とつなぎ、多様な学び を支援する。
- ⑤公共図書館は、学校図書館や幼稚 園・保育所・認定こども園と連携 し、授業活用等に必要な資料の充 実に努め、物流体制の整備や情報 支援を行う。

学習・教育(教育課程)の展開の可能性の拡大

目指す方向

- ①学校図書館を学校教育の中核機能としてとらえ、学校 長を中心として学校全体で学校図書館の活用推進に取
- ②アクティブ・ラーニング、探究的な学習等を支える学校図書 館の機能を有効的に活用し、「学びの質」の向上を目指す。
- ③情報活用能力の系統性を把握し、児童生徒の発達段階 や実態に応じて、各学校の教育課程にあわせた学びを 系統的・螺旋的に計画し習得するよう努める。
- ④学校図書館は、デジタルコンテンツも含めた情報提供 の向上を目指し、ICT活用教育との 連携を図る。
- ⑤共生社会形成に向け、学校図書館 から公共図書館活用へとつながる インクルーシブ教育システムの構 築を推進する。

これからの生活・キャリアに対応する力の育成

目指す方向

①学校図書館は、キャ リア教育の一環と して発達段階に応 🌑 じた基礎的・汎用的 な能力の育成に努 め、社会人として自 立した人を育てる。



- ②自由読書の場とし てだけでなく、自己実現のための場として、公共図書館 を利活用できる大人へと導く。
- ③学校図書館は、家庭や地域における読書活動推進の拠 点として様々な活動を工夫する。
- ④地域住民や異校種(幼稚園等も含む)との読書活動によ る交流を行い、地域での読書活動を推進する。
- ⑤学校図書館は、児童生徒の「心の居場所」となる。



館を活用することで身に付

け

情報活用能

	幼稚園·保育所·	小学校			中学校	高等学校
	認定こども園	低学年	中学年	高学年	X	同分子仅
子ども像	◆絵本や物語を楽し み、表現すること を楽しむ子ども	◆読書や調べる楽しさを知り、図書館 の正しい利用の仕方を身につけた 児童	◆いろいろな種類の本を読み、課題解決に向けて、友達と関わり合いながら意欲的に学ぶ児童	◆目的に応じて、図書館を適切に利用 し、学び方を身につけ、課題解決に 向けて主体的・協働的に学ぶ児童	◆主体的に考えて判断し、課題解決に向けて 多様な資料から必要な情報を活用すること を通して、主体的・協働的に学び続ける生徒	◆将来の進路を見据え、自己実現のための課題解決に向けて、的確な情報を適切に活用することを通して主体的・協働的に学び、自分の考えを表現する生徒
課題の設定と情報収集(選択・整理・分析)精報の活用	○読み聞かせを楽しむ。	○身近なことや経験したことなどから興味・関心に応じて学習課題を 決める。	○興味·関心に応じて 具体的な課題 を 決める。	○ 目的を把握し、適切な学習課題 を決める。	○学習課題を解決するための適切な資料や 収集方法について考え、具体的な学習課 題を立てる。	○中学校までの知識やスキルを基に学習課題を解決する ための資料の読み解きや収集方法について検討しながら、適切な学習課題を立てる。
	○好きな本を見つけ 絵本を楽しみなが ら読もうとする。○友達や先生の話を	○題名や表紙などに着目して必要な 図書を見つける。	○ <u>目的に応じて、複数の資料</u> の中から <u>必要な資料</u> を選ぶ。	○目的に応じて、複数の資料の中から 課題解決に役立つか判断し、資料を 選ぶ。	○目的や <u>意図に応じて多様な情報源</u> を活用 し、 <u>必要な各種資料</u> を選ぶ。	○自分の設定した課題が見通しを持って解決できるか考察しながら、根拠となる多様な資料収集を的確に行う。 ○目的に応じて多岐にわたる検索方法で情報の特性を生かした様々な資料を選ぶ。
	関心をもって聞こうとする。図鑑を見て楽しく調べようとする。	○資料の中から目的に合わせて情報 を選ぶ。	○ <u>二つ以上の情報</u> の中から、目的に合ったものを選ぶ。	○ 複数の情報 の中から、適切な方法を 使って課題解決に必要なものを選 ぶ。	○複数の情報を <u>目的に応じて比較、分類、関</u> 連づけ、多面的・多角的に分析する。	 ○常に複数の情報を適切に比較、検討、分類し、情報の持つ価値や希少性等を判断しながら情報を選択する。 ○自分の考えとは異なる意見の資料も取り入れ、様々な考えや解釈のあることを理解した上で総合的に判断して活用する。
	○友達の思いを受け 止めようとする。 ○生活の中で必要な言 葉を使おうとする。	○気づいたことや分かったことを記録し、必要に応じて簡単な絵や文で書く。	○必要な情報を箇条書きで 要点をま とめる。	○事実、引用、要約などと自分の考え を区別して、分かりやすくまとめる。○構成、レイアウトを工夫したり、絵や 文、グラフ、図や表などを使ったりして、効果的にまとめる。	○様々な情報を比較、分類、単純化したり、情報追加したり、再構築したりする。○情報を整理して、目的や意図に応じてわかりやすく要点を押さえて自分の意見の関係性を考えてまとめる。	○目的に応じて選択した資料を論理的に読み解き、資料を多面的、多角的に分析し自分の課題に関連付けることができる。○選択した情報を自分の意見と比較、分析しながら構成を考え、論点をまとめる。
情報の伝達と評価	○考えたことを自分 なりに表現しよう とする。○自分の思ったこと を相手に伝えよう	○多様な発表方法を経験して表現する。 ○順序に気をつけて、わかりやすく伝える。	法を選んで表現する。	○目的や意図に応じて効果的に表現するよう工夫する。○考えたことや自分の意図が分かるように、構成を工夫しながら、目的や場に応じて	図に応じて効果を考えながら工夫して表	○表現手段の特徴を理解し、相手や目的、意図に応じて 効果を考え、自分の考えとの関係性を考えながら工夫 して 論理的に 表現する。 ○情報発信手段としての機器の特徴を理解し、根拠を明 確にして 最も効果的な方法で 伝達する。
	とする。 ○友達や先生とのコ ミュニケーション を楽しむ。	○教師と共に課題を決め、内容の見通しを持って課題解決できたか振り返る。○友達の表現のよいところを見つけて感想を伝え合う。	を持って計画を立て、課題解決でき たか振り返る。	○課題が適切で、見通しを持って内容や方法について学習を立て、解決することができたか振り返る。○学習課題や学習過程について友達の表現のよさを伝えたり、<u>助言したりする。</u>	○課題が明確なもので、課題解決に向けての内容、方法、表現が効果的であったか振り返る。○表現、伝達されたものの中から、課題解決のために集めた情報の有効性、必要性、信頼性を判断し話し合う。	○課題設定から調査、発表までの一連の取組みについて、客観的な自己評価を行う。○課題設定から調査、発表までの一連の取組みについて、客観的な相互評価を行い、自分の学びにいかす。